

事例番号 067 風土を大切にしまちづくり(石川県七尾市・御祓川)

1. 背景

七尾市は能登半島東部に位置し、北部が七尾南湾に、東部が富山湾に面する人口約6万2千人の市である。香島津と呼ばれ天然の良港として栄えた七尾港を中心に、古代より能登の政治・経済・文化の中心地として発展してきた。渚のいで湯として有名な和倉温泉や様々なリゾート施設を有する能登島など観光資源にも恵まれている。



七尾市の位置 (資料:(社)北陸建設弘済会ホームページ)

しかしながら、最近では中心市街地の衰退が顕著である。中心市街地の人口はこの10年でおおよそ10%も減少し、高齢化が進んだ(1998年時点で高齢化率は20%を超えた)。衰退の原因としては、以下が指摘されている。

- ・ モータリゼーションの進展
(自家用車保有台数96.9%、軽自動車を加えると1世帯に1台以上の保有率)
- ・ 道路整備の進展(七尾道路、159号バイパス等)
- ・ それらに伴う生活圏の拡大、市街地の拡大、住宅・商業施設の郊外流出

郊外が発展する一方、中心市街地ではまちのシンボルともいべき御祓(みそぎ)川の荒廃が進んだ。御祓川は中心市街地を南北に流れてまちを東西に分ける川である。旧暦6月の晦日に大祓の神事が行われていたことからこの名前がついた。しかし、地盤沈下による河床勾配の減少、放水路の整備による流量の減少、生活排水の流入などによって水質の汚染が進み、河床のへドロから夏になるとメタンガスが発生する「ドブ川」になってしまった。人々は川にあまり関心を持たなくなっていたが、その背景には観光客が少なかったという事情もあった。能登の観光客は年間130万人あるものの、能登有料道路が七尾市の市街地を避ける形で開通したため、それらのほとんどは七尾市の中心市街地を訪れることがなかったのである。

1980年代になると港湾産業が衰退したこと等から、七尾市は中心市街地のみならず市全体としても活力が低下するようになった。七尾港は産業や流通の変化を受けて次第に機能を失い、市民の関心も薄らいでいった。

このような状況に対し、商店主や事業者の有志が、港を中心としたまちづくりをめざして「新しい市民交流拠点」をコンセプトとした「能登食祭市場」を七尾港に設けた。その能登食祭市場を七尾市のひとつの核とすれば、もうひとつの核がJR七尾市駅前であり、そこで市街地再開発事業により商業・交流拠点ビル「パトリア」の整備が行われた。そして、これら2つの核を結ぶ御祓川沿いの道路をシンボルロードとして整備すること等を内容とする「七尾都市ルネッサンス都心軸整備事業」が実施されている。さらに、その地区において民間のまちづくり組織「榊御祓川」が拠点施設の整備・運営等を行っている。本稿ではこれらの概要を紹介する。



七尾市の観光地 (資料:(社)北陸建設弘済会ホームページ)

2. 目標

1999年に策定された七尾市の中心市街地活性化基本計画は、賑わい・文化・環境のために、まちづくりの方向性を「七尾の文化と生活を楽しむかけ」、「人々が憩い賑わう御祓川かいわい」、及び「持続的に発展する環境まちづくり」を実現することとしている。そして中心市街地の統一テーマとして次の4つの言葉を掲げている。

【まつり】

中心市街地が受け継いできた財産。個性をつくり、経済効果を生み、コミュニティを育てる。

【あかり】

真宗王国の土壌に支えられた全国シェア1位の伝統産業。灯りに人が集まる。

【かおり】

国民文化祭のテーマ。商工会青年部等の取り組みによる新しい文化定着。文化の香るまち。

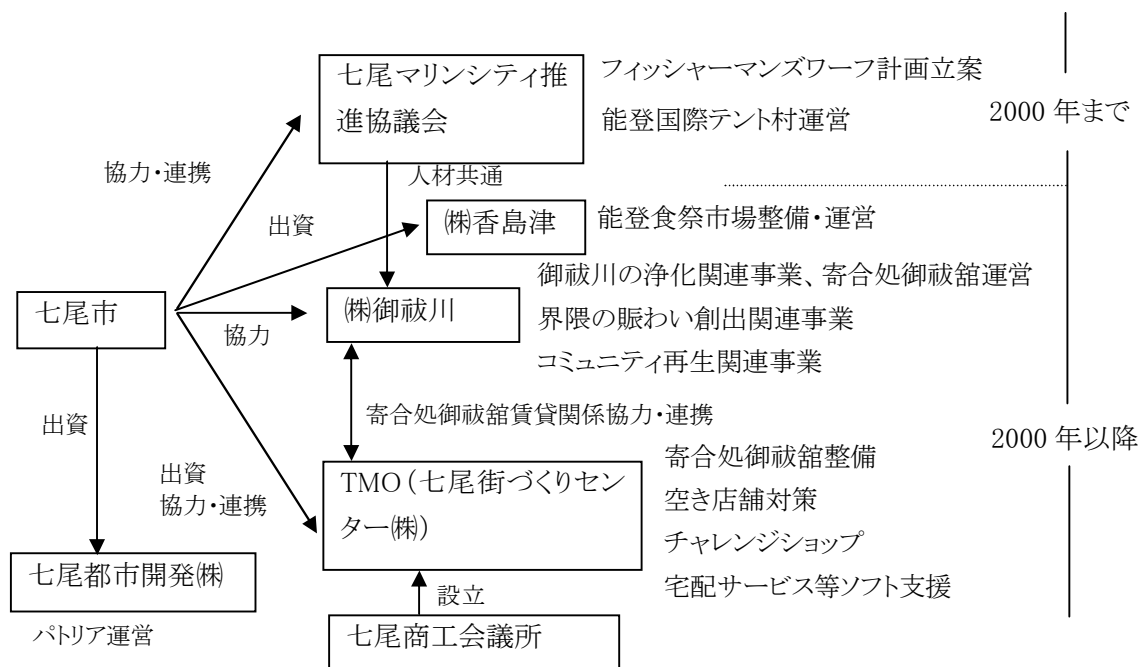
【かざり】

中心市街地の自然(海・川・緑)を守り、アート、石彫やバルーンでまちを美しく飾る。

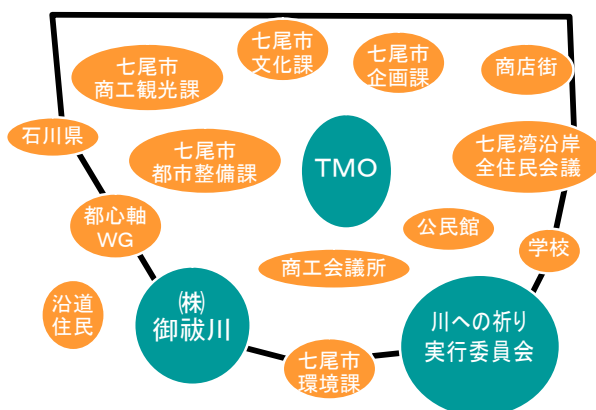
3. 取り組みの体制

まちづくりの中心主体は、(株)御祓川、七尾市、TMO 七尾街づくりセンター(株)、七尾商工会議所である。他に、様々なまちづくり団体が活動しており、テーマ毎に中心主体や連携関係は異なる。例えば、御祓川の浄化活動の場合は、(株)御祓川と川への祈り実行委員会が中心主体であり、他の団体はそれに協力する関係となっている。

取り組みの体制図



様々なまちづくり主体／御祓川浄化研究会の場合の連携関係（資料：(株)御祓川）



4. 具体策

(1) 能登食祭市場

七尾市の衰退を憂えた七尾青年会議所(JC)メンバーの商店主や事業者は、1985年に開催された市民大学講座で、七尾市の進むべきみちは「港を中心としたまちづくり」であると確信し、港からまちを再生していくという内容の「七尾マリンシティ構想」(フィッシャーマンズワーフ計画)を立案した。この構想の推進母体として「七尾マリンシティ推進協議会」(以下推進協議会)が設立された。

推進協議会は、構想の実現に向けて「能登国際テント村」というフィッシャーマンズワーフの疑似体験イベントを開催することとした。そして、その運営主体として、地元関係者、県、市、周辺市町の出資により第三セクター「(株)香島津」を設立した(資本金1億3500万円)。

(株)香島津は1991年にフィッシャーマンズワーフとして「能登食祭市場」を整備した。そのコンセプトは「新しい市民交流拠点」であり、機能を失った港に市民の目を向けることを大きな目的とした。運営も(株)香島津が担っている。

能登食祭市場の中には延べ床面積5,384㎡の魚市場がある。これは(株)香島津が直接運営する直売所である。また、能登食祭市場には魚市場以外に会議室、飲食・展示スペースが設けられており、地域住民の集会(主に委員会などの会議利用)や文化イベントなどに利用されている。

能登食祭市場の年間利用者は約90万人にまでなっている(2003年6月～2004年5月で914,001人)。そのうち約4割は地元の人である。夜遅くまで市場が営業していることが地元の人々の利用が多い一因になっている。和倉温泉の宿泊客の立ち寄りも多く、観光地にもなった。



地元の人がよく利用する能登食祭市場（写真提供：(株)御祓川）

(2) パトリア

以上のような経緯で能登食祭市場が七尾市のまちのひとつの核となったが、それに対するもうひとつの核が JR 七尾駅前である。七尾市は周辺地域の母都市的存在になっており、昼間人口が夜間人口を上回っている。そのため JR 七尾駅利用者が多くなっているが、七尾市はコンパクトなまちであるため鉄道と徒歩、自転車、バスの組み合わせが多く、JR 七尾駅がまちのひとつの核になっている。

その七尾駅前を七尾市の表玄関にふさわしい顔にすべく、1980 年代から市街地再開発事業（組合施行）の計画が作られ、1995 年に再開発ビル「パトリア」がオープンした。この市街地再開発事業の基本方針、整備計画、事業経緯、事業内容は以下のとおりである。

〔基本方針〕

- ・ 能登の中核都市・七尾の新たな活力拠点の形成と商業の活性化
- ・ 土地の高度利用と建物の不燃化による防災性の強化
- ・ 中心市街地にふさわしい良質な景観形成

〔整備計画〕

- ・ 安全で快適な都市空間を創出する公共施設の整備
- ・ 大型量販店、百貨店、多彩な専門店から構成される魅力ある商業施設の設置
- ・ 市民交流や新しい地域文化の創出に寄与する「フォーラム七尾」の設置
- ・ 中心市街地に必要不可欠な大型駐車場の設置
- ・ 緑豊かでうるおいのある都市緑地の整備

〔事業経緯〕

1981 年	七尾駅前周辺地区市街地再開発事業基本計画作成、推進協議会発足
1982 年	七尾駅前地区市街地再開発推進計画策定
1987 年	七尾駅前地区市街地再開発事業企画書作成、地元説明会
1988 年	七尾駅前再開発事業準備協議会発足
1989 年	再開発事業区域を 0.22ha から 1.4ha に拡大、準備協議会再編成
1990 年	七尾駅前地区市街地再開発準備組合設立、都市計画決定（再開発事業他） 七尾都市開発株式会社設立（第三セクター）
1992 年	施行地区となるべき区域の縦覧公告 七尾駅前第一地区市街地再開発組合設立認可
1993 年	事業計画の変更認可、権利変換計画認可、着工
1994 年	七尾都市開発株式会社テナント募集説明会開催、「パトリア」に名称決定
1995 年	パトリア管理組合設立、4 月に「パトリア」グランドオープン

〔事業内容〕

地区面積	1.4ha
公共施設	道路、公園、緑地

建物敷地面積	8,058.82 m ²
建築面積	6,787.61 m ²
延床面積	39,435.28 m ²
構造及び階	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上 7 階建
商業施設	ユニー七尾店、パトリア大和、専門店
公益施設	「フォーラム七尾」(七尾市)
駐車場	530 台収容の全天候型自走式
駐輪場	120 台収容(1 階)
施工者	七尾駅前第一地区市街地再開発組合
管理組合	パトリア管理組合(管理者:七尾都市開発(株))
事業費	76 億円

「パトリア」はイタリア語で「故郷」の意味であり、快適生活をサポートする「新・生活情報館」をコンセプトにしている。核テナントはユニーで、他に専門店を誘致している(若者向けのナムコ等)。1 階～3 階は商業施設(量販店、百貨店、専門店群)、4 階～5 階は生涯学習とコミュニティライフステージの「フォーラム七尾」、4 階～7 階及び屋上は大型駐車場である。交通の結節点である駅前の再開発ビルに成人のみならず中高生も集えるスペースを公共が創出している点が注目される。

テナントの事業経営状況は良く、1 階のドーナツ店は北陸一の売り上げになっているとのことである。また、病院がやや離れたところにあるので、連絡バスを待つ人々の待合いスペースとしても利用されている。文字通りターミナルとしての賑わいの場になっている。

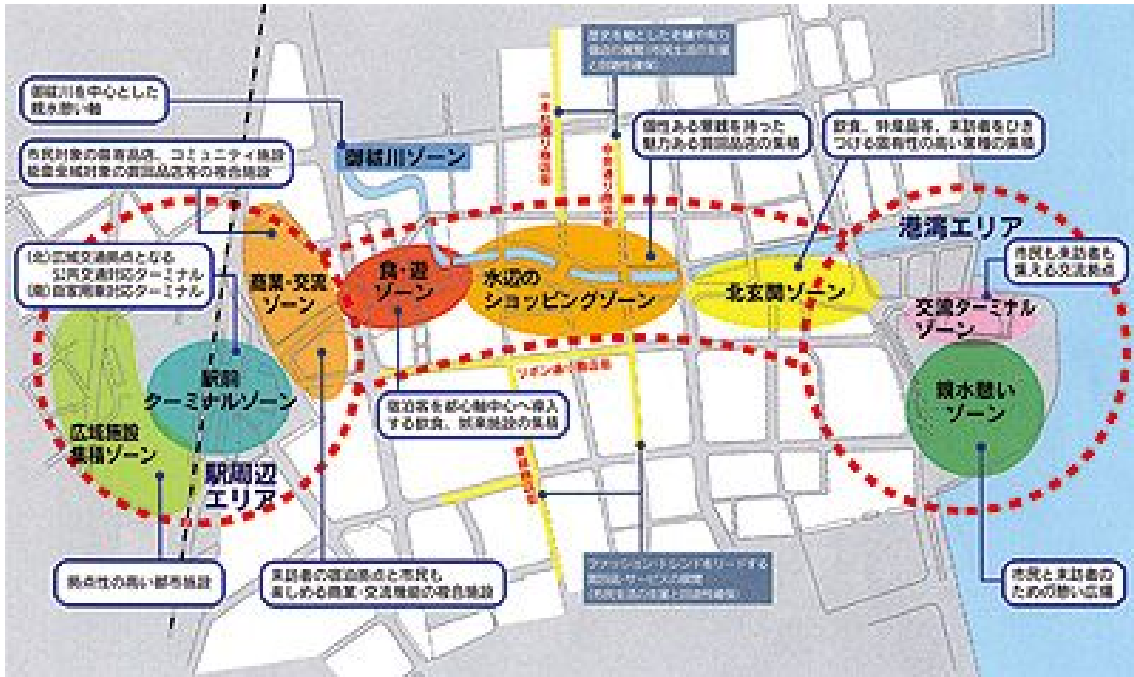
なお、このパトリアを市街地再開発事業の第一地区とし、現在引き続き第二地区の事業が進められている(「七尾駅前第二地区第一種市街地再開発事業」)。施工者は七尾駅前第二地区市街地再開発組合であり、建物の整備とあわせて駅前広場の整備(通過交通機能の駅前広場との分離、生活道路の再編等)が実施される。地区面積約 2.1ha、事業年度 2002 年度～2006 年度(予定)、総事業費約 76 億円となっている。



「パトリア」外観 (写真:「パトリア」ホームページ)

(3) 七尾都市ルネッサンス都心軸整備事業

1994年度から石川県が「七尾都市ルネッサンス都心軸整備事業」を実施している(2009年度までの予定)。これは七尾駅と七尾港とを結ぶ御祓川界限(都心軸)でシンボルロード等の整備を行うことにより「みち・かわ・まちなみが一体となった魅力的な都市空間」を創出しようとするものである。



御祓川沿道のまちなみ整備と都市軸機能配置 (資料:(社)北陸建設弘済会ホームページ)



シンボルロード・御祓川界限整備イメージ図 (資料:中心市街地活性化推進室)

「七尾都心ルネッサンス都心軸整備事業」の主な内容は以下のとおりである。

[シンボルロード整備事業(都市計画道路府中七尾駅線)]

石川県が実施している道路整備事業であり、上記 2 つの核を結ぶ都市計画道路府中七尾駅線を七尾市のシンボルロードとして沿道の景観も含めて整備するものである。幅広い歩道の整備、電線類の地中化、沿道建築物の修景等を住民参加のもとで進めている。事業期間は 1994 年度～2009 年度(予定)である。

[御祓川ふるさとの川整備事業]

「歴史と祭り、新たな街並みを活かす川づくり」をテーマに、石川県が事業主体となって橋梁、自然石積み護岸、親水休憩空間の整備、船着場の再現等により景観に配慮した河川整備を行った(1999 年度～2005 年度)。

その他、まちづくり総合支援事業(七尾駅前地区)等を実施している。

(4) ㈱御祓川

前述の推進協議会は「能登食祭市場」整備後も中心街の賑わいを取り戻すべく様々な活動を展開していたが、活動時間が午後 5 時以降に限定されていた上にメンバーが高齢になったことから、活動を積極化するためにまちづくり会社を作ろうという動きが生まれた。そして 1998 年 12 月にまちづくり会社設立準備会ができ、1999 年 6 月に民間まちづくり会社「㈱御祓川」が 5,000 万円の資本金で設立された。設立時の出資者は 8 名であったが、彼らは推進協議会に当初から係わってきたメンバーであった(花屋、不動産、飲食業、会計士など)。

会社設立のコンセプトは、「中心市街地で培われてきた“文化”に基づく事業を行い、さらに新しい文化創造を目指す」というものであった。七尾市の中心市街地の商業の方向性を具体的に指し示しつつ、まちづくりの一環として収益事業を成立させることを意図している。会社の名前は、2 つの核を結ぶ御祓川をまちづくりのシンボルにしようとの気持ちから付けられた。

会社の事業は、①御祓川の浄化に関わる事業、②界隈の賑わい創出に関わる事業、③コミュニティ再生に関わる事業の 3 本柱から成る。それぞれの事業内容は以下のようになっている。

[御祓川の浄化に関わる事業]

- ・ 産学官共同研究公募(御祓川の水質浄化をテーマとして研究体を組織して応募した)
- ・ 創知産業御祓川浄化方策技術ワークショップ(検討内容を県・市に提案、公共事業化)
- ・ 御祓川浄化研究会(水質浄化システムの実証実験を共同研究体として実施)

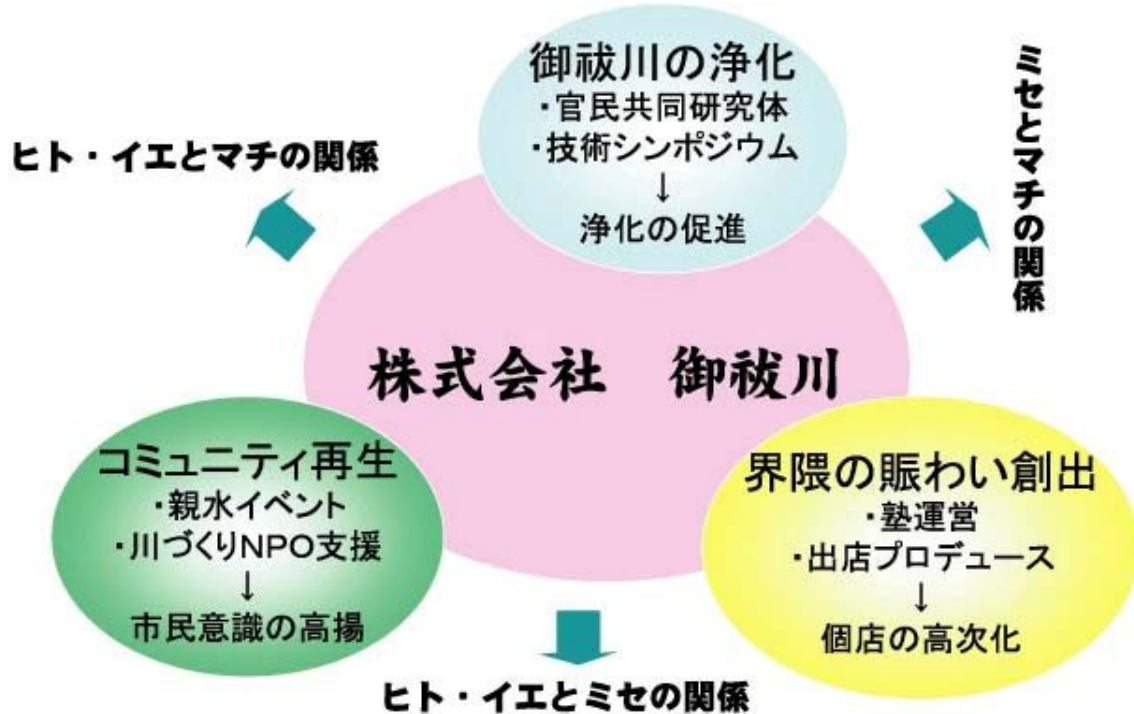
[界隈の賑わい創出に関わる事業]

- ・ 店舗整備(1号館(「寄合処御祓館」)、2号館、中庭、情報処しるべ蔵(「萬谷蔵」)整備)
- ・ 出店プロデュース(御祓川沿いに魅力的な店舗をプロデュース(直営店、テナント誘致))
- ・ 人材育成(まちづくり大学、マーケティング塾、経営安定セミナー「家業の可能性」開催)

[コミュニティ再生に関わる事業]

- ・ 川への祈り実行委員会(川と市民の関係を取り戻すための事業を継続的に展開)

- ・ まちづくり塾(地元まちづくりの担い手を育成する月 1 回の講義)
- ・ 各種まちづくりイベント企画運営(泰平橋開通イベント、長生橋開通イベント等)



株式会社 御祓川の事業 (資料:株式会社 御祓川ホームページ)

「界隈の賑わい創出に関わる事業」は「店づくりはまちづくり」という基本認識に立って展開している。その認識とは具体的には次のようなものである。

店で売るもの、店のたたずまい、排出するもの、これら全てがまちづくりと無関係ではあり得ない。その町で商売をする人が、本気で自分の家業を見つめ直していくと、まちの文化のお陰で自分の商売があるということに気づく。つまり、川が汚いということは、自分の商売にとってもマイナスだということに気づく。川沿いの店は、川に目を向ける人々を増やし、私たちのまちが持っている財産を確かめ合う場であり、川沿いに元気を吹き込む窓なのである。

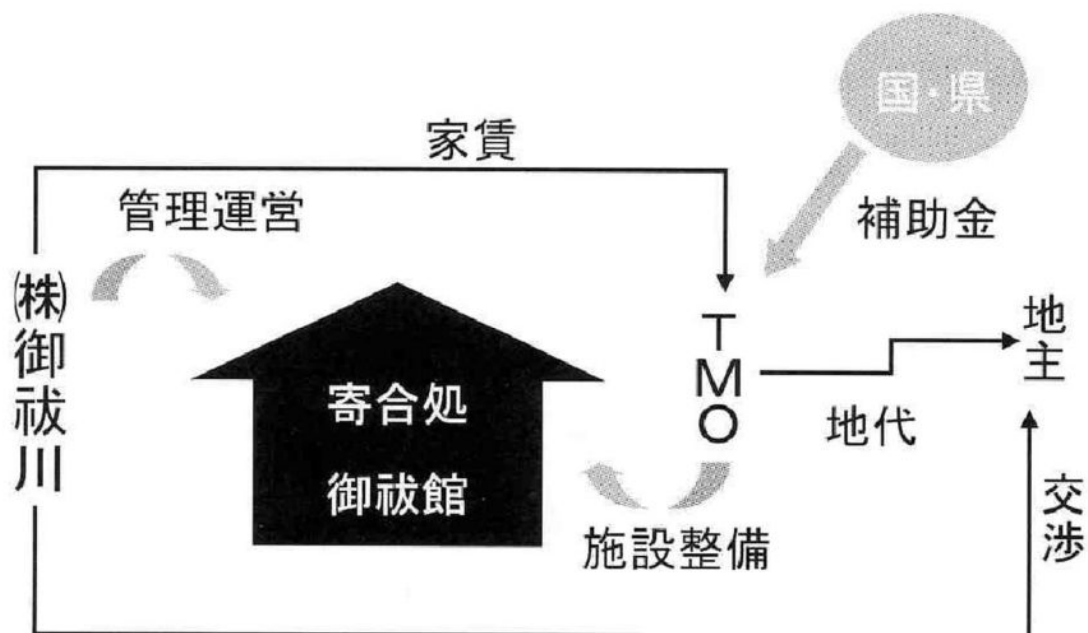
このように、株式会社 御祓川は、川沿いの店からの働きかけによって、まちと川との一体的な再生を目指している。また、観光客向けの商品と住民向けの商品とを分けない。観光客の指向も地元生活文化指向になってきているので、生活文化に根ざしたものを提供していけば客はおのずと広がる。株式会社 御祓川はこのように考えている。

同社が最初にプロデュースしたのが「寄合処御祓館」である。これは御祓川沿いにある旧十二銀行の歴史的建物を TMO「七尾街づくりセンター(株) (1998 年 8 月設立) が改修して商業インキュベーター施設にしたものであるが、株式会社 御祓川が借り受けてプロデュースした。1 階は食をテーマとした高品質な工芸品店「暮らしっく館葦」及び飲食店「いしり亭」、2 階は事務室及び塾・ミーティングのためのスペースになっている。飲食店「いしり亭」は同社の収益事業の柱になっている。名前は能

登独特の調味料「いしり」(日本三大魚醤油のひとつ)に由来する。能登独特の生活文化を象徴する名前であり、能登特有の食材を用いた料理を出している。



「寄合処御祓館」の位置 (資料:株御祓川)



寄合処御祓館の事業スキーム(資料:株御祓川)

「寄合処御祓館」のすぐ隣には同社がプロデュースした美容院がある。そこでは 2 階から見下ろす御祓川の風景を楽しみながら美容サービスが受けられる。パーマ液等の排水を無害にして流すシステムを取り入れ、「川のあるまちで商売をさせていただく」という基本的な姿勢を貫いている点が特徴的である。

㈱御祓川の活動は周囲のまちへの意識も変えてきた。付近の時計屋、骨董品店等が「寄合処御祓館」の歴史的景観の影響を受けて伝統的デザインに改修した。御祓川沿いの道路がシンボルロードとして整備されたこともあって、食祭市場から駅までの川沿いや、直交する商店街である一本杉通りを歩く人が多くなった。



寄合処御祓館(右)と美容室(左) (写真提供:㈱御祓川)

5. 特徴的手法

七尾市のまちづくりでは、まちの衰退を憂えて再生のための戦略的な活動を継続的に展開する市民グループが存在したところに極めて大きな意義がある。その活動は、観光客向けの特別なコンセプトを採らず、能登の生活文化そのものを前面に出したことが大きな特徴となっている。そこに真のまち再生の契機があると認識した点が優れている。

このような活動を継続させ本格化させるために、商店主や事業主のサイドワーク的活動組織(七尾マリンシティ推進協議会)をまちづくり会社に発展させたことも特徴的である。その設立には、㈱黒壁で有名な長浜の笹原氏との人脈があったことも有効に働いている。そうして設立された㈱御祓川が、川の再生が生活文化の再生につながるとの信念の下で川の浄化や親水化の活動も行っ

ていることがまたひとつの大きな特徴となっている。(株)御祓川は補助金頼りの NPO とはならず収益事業をコアにして健全経営をしている。

(株)御祓川の活動が周囲に波及効果をもたらす一方、七尾市には様々なまちづくり団体が生まれしており、テーマ毎にさまざまな連携関係が形成されてきている。

6. 課題

まちづくり活動を引き続き戦略的に行っていくためには、まちづくり活動の成果を評価するための仕組みづくり(指標の整備等)なども有効であろう。また、多くのまちづくり団体が生まれている状況を活かすためには、まちづくりへの参画・協働のルールを確立していくことも有効ではないかと思われる。中心的な組織の育成と横の連絡をよくすることが課題との指摘もあり、コーディネートする人材の育成なども必要であろう。

なお、一本杉通りでは客が集まる店が誕生しているという評価がある一方、「小さな店が生き活きと商売してまちが元気になるのが理想、だが、それには時間がかかる。自分がしおれないようにやっているのが精一杯、という事業者がまだ多い」という声もあり、商店主に(株)御祓川の活動が浸透するまでには時間がかかるという評価もある。

(参考・引用文献)

七尾街づくりセンター株式会社『平成 10 年度商業タウンマネジメント計画策定事業報告書』同、1999 年

七尾街づくりセンター株式会社『平成 15 年度タウンマネジメント推進事業報告書』同、1999 年

七尾駅前第二地区市街地再開発組合『七尾駅前第二地区市街地再開発事業』同、2005 年

株式会社御祓川『御祓川をめぐるマチ・ミセ・ヒト』同、2005 年

株式会社御祓川ホームページ

能登食祭市場ホームページ

パトリアホームページ

中心市街地活性化推進室ホームページ

国土交通省北陸地方整備局ホームページ

(社)北陸建設弘済会ホームページ(「ほっとほくりく」から引用)